

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさや喜びを味わうための基礎的・基本的な資質や能力を育成する体育学習
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善「体づくりの運動」～

2 研究の構想

体育科における課題

- ① 習得した知識及び技能を活用して課題解決することができない。
- ② 学習したことを相手に分かりやすく伝えることができない。
- ③ 運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向に歯止めがかからない。
- ④ 子どもの体力低下傾向に歯止めがかかったものの、依然として低い。

新学習指導要領（平成29年3月公示） 体育科の目標

体育科において育成を目指す資質・能力

- 各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能を身に付ける。 【知識・技能】
- 自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだ工夫したりする思考力・判断力・表現力等 【思考力・判断力・表現力】
- 運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 【学びに向かう力・人間性等】

研究仮説

体づくり運動の学習を通して、主体的・対話的で深い学びの在り方を明確化し、授業改善の工夫を進めていけば、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって健康の保持増進や体力向上に取り組む児童が育つであろう。

目指す児童像

体力の向上について、心身ともに成長の著しい小学校時期を踏まえ、「体づくり運動」の学習を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、様々な基本的な体の動きを身に付けるようにするとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識できるようにする。

研究内容

- 1 主体的・対話的で深い学びを具現化する授業作り
 - 昨年度の研究で整理した視点を取り入れた授業を確実に実行し、実践を積み重ねる。指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図りながら、子供たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりする等、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。それらの学習が展開される中で、着実な習得を促す学習が展開され、主体的・能動的な活用・探究的な学習が展開できるのではないか。
- 2 授業改善の工夫
 - 課題を解決するために押さえておくべき体育科授業のポイント
 - ① 安全面への配慮が十分ある。
 - ② 運動量が確保されている。
 - ③ できた・わかったなど技術面で向上が見られる。
 - ④ 仲間との関わり・協力が見られる。
 - 運動の特性や魅力を大切にきたカリキュラムづくりや教材の開発
 - 関わりを豊かにし、思考を深める一層の言語活動の充実

※ 次年度に向けて

- わくわく運動の改訂（正しい動きの周知徹底）
- 遊びにつながる体育学習の創造

3 研究の実際

(1) 主体的・対話的で深い学びを具現化する授業づくり「体づくりの運動」

運動が苦手な児童も楽しめる授業を行うことを中心に以下の視点で授業づくりを行った。

- ① 短時間 ② 複数種目 ③ ペア・グループ ④ 継続



【わくわく運動】

授業では冒頭の5分間、日南市小体連が作成した「わくわく運動」を行った。

数年間行っていると惰性的になり、正しい動きでできていなかったり、何となく体を動かしてダラダラとした感じで行ったりする場面も見られた。そこで、適宜正しい運動の仕方を説明しなおしたり、ペアを作らせて動きを真似させたり、走る方向を逆走させたりする等してマンネリ化するのを防いだ。



【グループでボール運び（手を使うのは禁止）】



【台風の日での棒ジャンプのみ】

児童が楽しむ、積極的になるには競争も必要である。しかし、苦手な児童は競争をすると物怖じしてしまい主体性がなくなってしまう可能性もある。そこで競争の中に偶発性のものも取り入れることにした。例えば、「グループでのボール運び」では、手を使うことを禁止することで誰もが経験しにくいもので得意不得意が目立たなくなるので楽しめる。また、ゴール前に番人を設け、じゃんけんで負けると振り出しに戻ることで一発逆転を生じさせた。「台風の日での棒ジャンプのみ」では、くじを引いて横に並ぶ人数を変えたり（1人～6人）、棒の代わりに持つものを変えたり（竹、なわとび、新聞等）することでくじによる偶発性で楽しみ、失敗しても失敗自体が楽しいという雰囲気を出すようにした。また、様々な種目に取り組みさせる中で、自然とペアやグループでの並び順や作戦などを話し合っ決めていく姿が見られるようになった。

(2) 授業以外での取り組み

継続して取り組めることを考え①朝の会 ②昼休み ③家庭との連携で取り組んだ。

朝の会では、ハンドグリップを握らせたり、イスの昇り降りをさせたり朝から数分間の運動を行った。昼休みは教師も一緒に遊ぶことでこれまで室内で過ごしていた児童も体を動かすようになった。家庭との連携では、6年での運動会「組体操」を意識して今から取り組めることとして「カエル倒立」などを紹介し家でも取り組んでもらうようにした。



【朝の会でのイスの昇り降り】



【昼休みの遊び（体育館も活用）】